

4-2 浅香通り

魅力ある夜間景観形成の視点

- ・歩道向きの照明灯を増やし、通り全体の印象を明るく
- ・浅香通りに接続する通りの入り口や交差点をわかりやすく
- ・建物や街路樹の陰を明るく
- ・にぎわいのある雰囲気づくり
- ・通りの軸線を強調した照明計画



まちの骨格を豊かに彩る オフィス街の光だまり

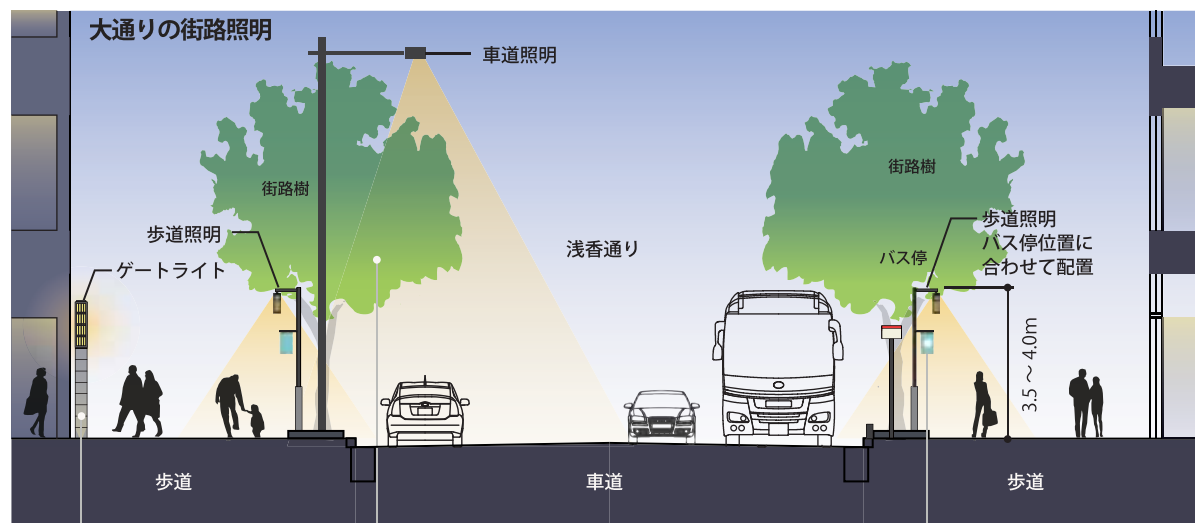
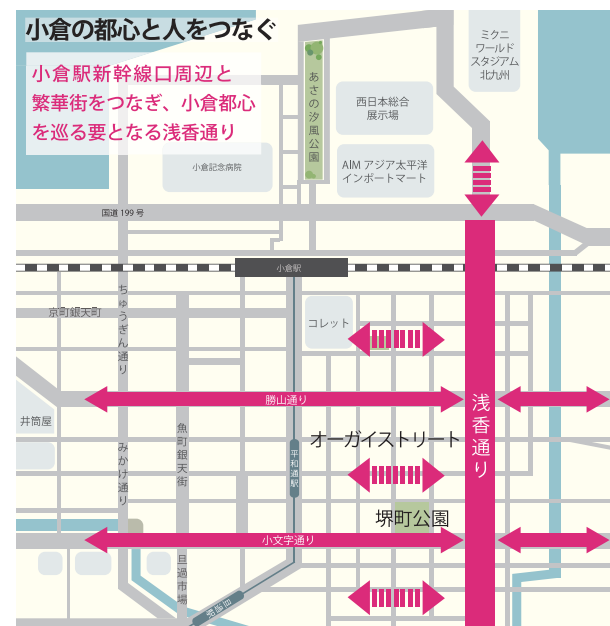
オフィスが連なる浅香通り。生活者だけでなく来訪者が多く利用するこの通りでは、交差点や通りの入り口に重点的に光を配置して結節点をわかりやすくすることで、人々が安心して回遊できる光環境を演出しています。通りの軸線を明確にし、リズム感のあるあかりによって歩いてみたくなる夜間景観を創出、また民間施設などの夜間景観づくりへの参加により、メインストリートとしての魅力を創出することができます。

<照明デザインポイント>

- ・歩道幅員に対して適切な照度の街路灯を配置し路面の明るさを創出
- ・交差点など重点的に光を配置して通りを繋ぐ結節点を創出
- ・各通りへの入口に光を配置しゲート性を演出
- ・樹木のライトアップにより緑の表情を取り込み視覚的な明るさを創出
- ・民間施設のライトアップなど通り全体の魅力を演出
- ・歩行者や自転車の通行の妨げにならないようグレアの少ない器具を使用



夜間景観イメージ



通りへの入口を示すゲートライトを配置すると繁華街への回遊を促すことができます。

街路樹や植栽など緑の表情を照らすと通りの軸線をわかりやすくできます。(植樹帯や歩道照明灯を利用したライトアップ)

歩道の幅員にあわせて高さを抑えたヒューマンスケールの照明灯を連続させると軸線を明確にし親しみを感じる歩道空間を形成できます。



民間施設のライトアップ事例



4-3 鷗外通り

魅力ある夜間景観形成の視点

- ・通りの幅員に合った照明の高さ設定
- ・通りの個性の演出
- ・通りの入り口のわかりやすさ
- ・回遊性を高めるような照明演出
- ・沿線施設の夜間景観づくりへの積極的な参加



人の流れをつくるあかり 歴史と語らいの繁華街

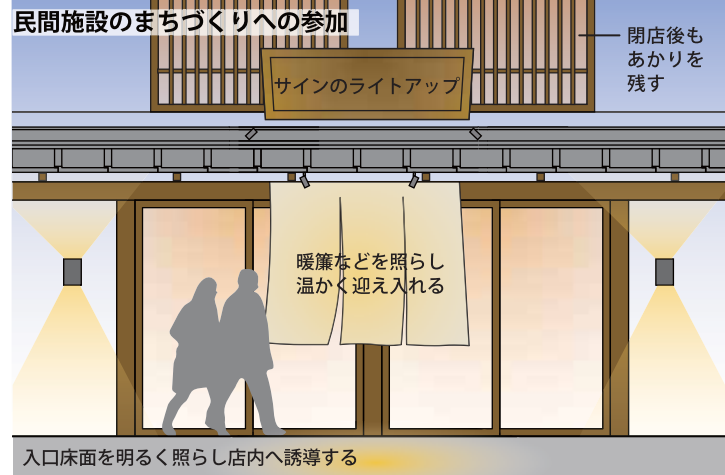
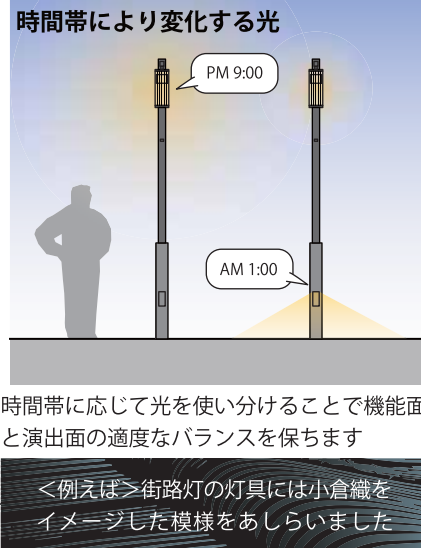
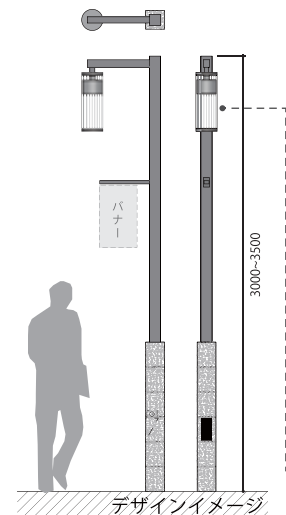
明治の文豪、森鷗外が過ごした旧居が残る鷗外通り。多くの飲食店が軒を連ね、夜も多くの人が行き交う通りで、個性とにぎわいを創出する光環境を演出します。城下町の町割りの面影を感じさせる、シンプルで日本的な照明灯デザインや、通りの幅員に合ったヒューマンスケールの高さを抑えた光で、通りの連続的なつながりと、陰影のある、散策したくなるような空間を描いています。

<照明デザインポイント>

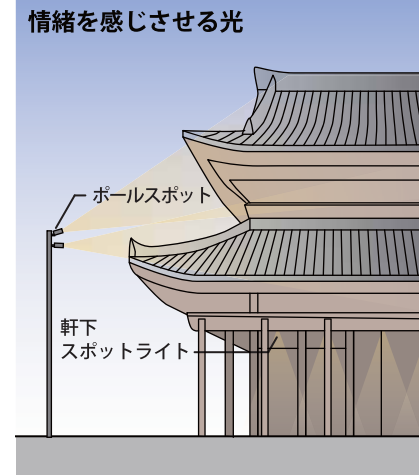
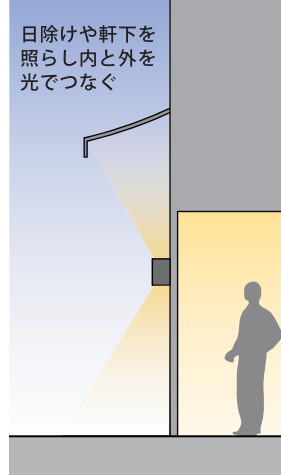
- ・街路灯は歩道幅員に対して適切な高さを設定
- ・適度な輝度感のある街路灯を連続して通りにつながりとにぎわいを演出
- ・歩行者を優先した回遊性を高める光環境を創出
- ・街路灯の意匠を統一することで通りの一体感を創出
- ・入口や交差点などは、重点的に光を配置して通りをつなぐ結節点を創出
- ・お寺や史跡、民間施設など夜間景観への積極的な参加



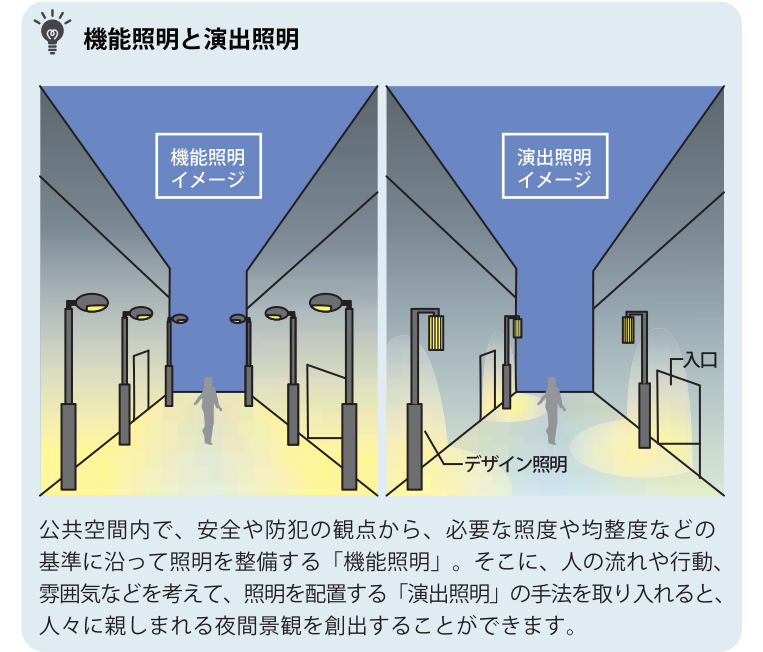
街路灯のデザイン



通りの魅力ある夜間景観をつくるためには、沿線の様々な施設と一緒に取り組むことで大きな効果が生まれます。施設などの照明計画を行う際には照らす場所に応じた光を選択し、統一した光環境を創出することが重要です。また、閉店後も内部の光を一部残すことで、店舗などのPRにつながることも通りの防犯効果を高め歩行者に安心感を与えることができます。



お寺や史跡など歴史ある建築の屋根を柔らかく照らすと、陰影のある情緒的な光景を創出できます。



公共空間内で、安全や防犯の観点から、必要な照度や均整度などの基準に沿って照明を整備する「機能照明」。そこに、人の流れや行動、雰囲気などを考えて、照明を配置する「演出照明」の手法を取り入れると、人々に親しまれる夜間景観を創出することができます。

4-4 堺町公園

魅力ある夜間景観形成の視点

- ・明るく安心感が持てる広場づくり
- ・周辺建物や樹木などの鉛直面の明るさ創出
- ・メリハリのある照明デザイン(公園機能をわかりやすく)
- ・周辺施設と一体となった夜間景観整備

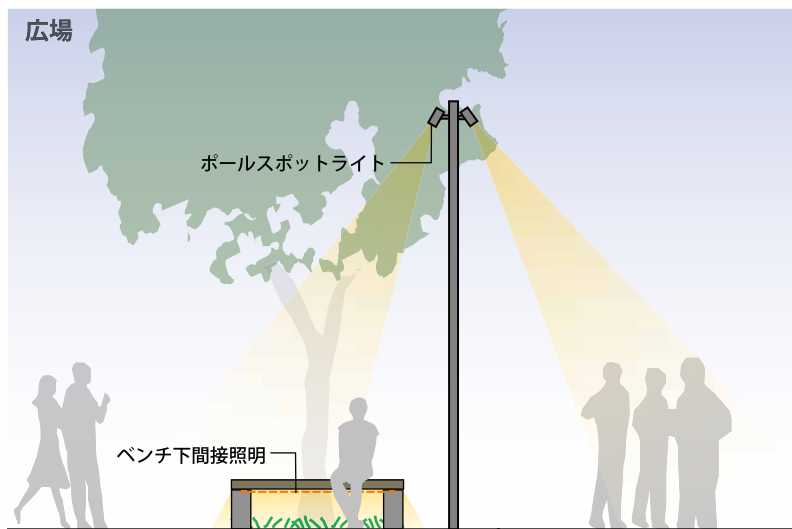


地域と共に 都心のコミュニティパーク

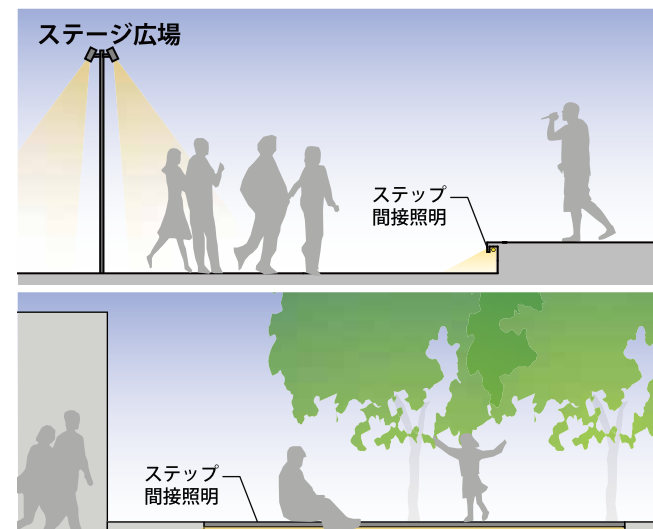
夜間景観照明のコンセプトは、「都心のコミュニティパーク」。夜間も憩いと活動の場となり市民交流が活発に行われるように、陰影のある落ち着いた光で、親しみやすい光環境を描きました。ベンチやステップに照明を組み込むことで公園内に自由に座ったり、樹木の緑の表情を取り込むことで視覚的な明るさを演出しています。広場には光溜まりを点在させることで佇みの光環境を創出しました。またイベントに活用できるようにステージ広場をつくり、公園の中心をつくることで都心のコミュニティパークをイメージしています。

<照明デザインポイント>

- ・広場に光溜まりをつくり陰影のある落ち着いた表情を演出
- ・足元や花壇を照らす重心の低い光により心地良い佇みの空間を創出
- ・樹木など緑の表情を照らして視覚的な明るさ感を創出
- ・デザインウォールを照らしステージを中心とした公園を形成
- ・周辺の建物と一緒にあかりを考える夜間景観



広場に光溜まりをつくるポールスポットライトは公園に陰影のある表情を演出します。ベンチ下に組み込んだ足元や花壇を照らす光は佇みの空間を創出します。



照明器具はランドスケープと一体となるようにステージ広場に組み込むことで景観に配慮した心地よい空間を創出できます。



公園内の樹木をライトアップして緑の表情を取込みと明るい印象となります。

イルミネーションの照明手法

場所の特徴に合ったテーマを決めよう！
例えば...

テーマとなるキーワード例	
暮らし まちのイベントやお祭りに合わせた華やかなあかり	産業 工場夜景のライトアップと一体感をもたせたあかり
自然 川の流れや水面の揺らぎをイメージしたアクアブルーのあかり	歴史・文化 灯籠や行燈などを取り入れた温かい色合いのあかり

【トップ部分】
細枝に沿って取付

【サイド部分】
幹や太枝に沿って取付

樹木ライトアップ照明 (低ポールスポット)

季節の特別な賑わいを感じさせるイルミネーションは、通りやエリアごとに演出テーマや光の色を決め、全体としてまとまりのある印象を残すことが大切です。光の色は2色程度にまとめ、点滅などの注意を引く大きな動きは避け、品格のある演出を心がけることが大切です。